



細江カトリック教会だより

11・12月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

喜びを分かち合う人に

ようやく地区の制限もなくミサに参加し、1年半ぶりに聖歌を共に歌うことができるようになったこと、まずは感謝いたしましょう。限られた数の歌とはいえ、声を出して主を賛美できるのは、わたしたち皆にとって大きな喜びです。ご承知のとおり、国内の感染は驚異的に収まってきましたが、新たな変異株が世界中で確認され、日本にも影響を及ぼさないとはいえません。また、ニュースにはならない先進国以外の地域では想像を超える悲惨な状況が続いているようです。そして、コロナ以外の理由でも、世界中で多くの人々が苦しんでいることも周知の事実です。そんな状況でも、主を賛美する、共に生きていることを祝うことを忘れてはなりません。



クリスマスに思い起こす主のご降誕の時の状況も、今とさして変わりません。イエスがお生まれになった小国ユダヤは、地中海世界に君臨する大帝国の支配下にあり、地元の政治家、宗教指導者も、決して庶民に希望を与える人々ではありませんでした。誕生物語を記す福音史家ルカは、冷静に当時の為政者たちの顔ぶれを紹介し、マタイ福音書は具体的に、幼児の命を狙うユダヤの王の姿を描きます。いずれも、かつて繁栄を極めたソロモンの栄華にはほど遠い状態でした。主は暗闇に輝く光として、昔も今も、人間の世界の片隅に居場所

を見つけてお出でになるのです。今宵の宿も見つけることのできない移住者として、遠い避難先へと不安な旅に出る難民として、主は人々の間に宿られるのです。

日々襲う不安によって希望を失い、あるいは、一見平静を装いながら、心の中では不安に悩まされる日々を送る多くの人々の中で、真の希望のありかについて教えられ、歩むべき道を指し示す、変わることはない光を浴びたわたしたちは、主と共に歩む使命と喜びをいただいています。すべてのキリスト者は宣教者です、と言われるフランシスコ教皇は、使徒的勧告『福音の喜び』の中で、「あなたが見つけたもの、あなたを生かすもの、あなたに希望を与えているもの、これこそあなたが他者に伝えるべきものです」と言われました。クリスマスの喜びを祝う時、自分のことを脇に置いて、あなたの力、あなたの知恵、優しい言葉、笑みと眼差しを求めている人に、近づき、共に過ごす一時をもつことができれば、それは素晴らしい幼児へのプレゼントとなるでしょう。

作道 宗三 神父



霊操研修会を終えて

「貧しい人の一生は災いが多いが、心が朗らかなら、常に宴会にひとしい。」

(箴言 15 章 15 節)

数ヶ月前のある主日の日、教会の掲示板に「霊操研修会」の案内が貼り出されていることに気がついた。霊操についてはほとんど何も知らない当時の私であったが、主イエスのことをよりいっそう深く知りたいと普段から思っていたので参加させていただくことにした。

この研修で取り組んだ霊操は、現代人の生活スタイルに合うように、一日の祈りを半時間程度、ただしそれを数ヶ月間継続することという原則のもと行われた。

この研修会を通して持った気付きや体験は、おそらく参加者によってそれぞれ異なるだろう。私個人にとっては、私自身の半生を振り返り個人的な罪深さを深く考察した後に、主イエスによる贖罪の意義や洗礼の恵みを再考した時、主イエスの慈悲深き御顔に触れたような気がするがあり、それがとても感動的であった。そして研修を終えた今は、以前よりも主なる神の愛を深く感じ取りそれに感謝する感性が深化したように思える。喩えて言うなら、主なる神と言葉によらない愛情深いコミュニケーションを以前よりはとれるようになったのではないかと思う。

勿論、聖イグナチオが経験したかのインスピレーションには遠く及ばないけれども、このような実感を得られたことは莫大な財産を手にしたことにひとしいのではなからうか。

このような恵みを得られたのは、百瀬神父様をはじめとした同伴者の方々や、各地区のまとめ役を担ったリーダーの方々、共に研修会に参加した信徒の方々、研修会が上手く行くようにと祈ってくださった方々など、数え切れないほどの方達の尽力によるものだ。

この場を借りて深く感謝を申し上げたい。これからも少しずつ主イエスに倣う生活を送れるように霊操を続けて行きたい。

村尾 洋平

☆細江カトリックセンターの馬小屋



待降節黙想会 12月12日(日)



待降節黙想会の感想①

今年はアルティリョ神父様のご指導でした。お話は、神父様が長年の司牧で実際に経験された「主との出会い」と重なる聖書の2か所マルコ 10. 46-52「物乞いの盲人を癒される」とルカ 19. 1-10「ザアカイの回心」でした。

ナザレのイエスと聞いた道端の盲人は、人々の制止にめげず「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください。」と叫び続けました。

ただイエスを見たいだけの好奇心から木に登っていた金持ちのザアカイは、罪びとを救うために来られたイエスから呼びかけられ、思いがけない神の恵みの計画に触れて、木から降りて、財産を投げ出すと言って回心しました。

神父様は医師の「私に任せてくれますか」の問いに「はい」とだけ答え、腎臓がんの手術を受けられ90歳を過ぎた今も長府教会で司牧されています。受胎告知のマリアの「はい、私は主のはしためです」の心で。命がけの神の計画に、節制心もち、生き方を変え、皆のため現代社会のために、自分の生活を見つめ直し、新しい人間になって生きていきましょう、と温かく励ましてくださいました。

神殿に近づけない人を罪人だと見下す人々の態度は自己主義に陥り、平和を失います。自分の現実を受けとめて、主がいつも共にいて

地区だより V

下さるとの信仰にこそ、大きな喜びの恵みで満たされるのです。自分にとっては不幸な出来事であっても、乗り越えられ、感謝できるのですと、悟らせてくださいました。

続く「喜びの主日」(待降節第3主日)ミサの第2朗読「パウロの手紙」の「主にあっても喜び。重ねて言う。喜び。主は、近づいておられる。…人智を超える神の平和…」(フィリピ4.4-5)に守られている霊的な喜びに浸る一日となりました。

神に感謝！ (広報報委員)



待降節黙想会の感想②

待降節第3主日、細江教会では、長府教会のアルティリョ神父様による黙想会に与る恵みをいただきました。バルティマイやザアカイなどが登場する聖書の場面を一緒に味わいました。

イエスに触れ、まず自分の罪を認め、生き方を変えた彼らのように開かれた深い心で現実をみる、新しい人になるようにという喜びのメッセージを示していただきました。

十字架にかかるほどまでに私たちの救いを求められたイエス・・・

「神様の計画は、命がけですよ」とおっしゃった言葉も心に響いています。

神父様を通して、柔和というキリストの香りを思いました。

ご降誕祭を前に、イエスと自分を静かにみる一刻を与えられたことに感謝しております。

マリア・フランシスカ・雅子

☆聖堂入口の馬小屋(ベトナム青年たちの作)



「コロナ禍の祈り」

コロナ禍で祈る人たちの声を地区会で聴きました。



「御ミサを一週間の始まり、中心とやってきた私は、教会の門が閉じられるという異常な事態に不安とおどろきを感じましたが、私の信仰、神と共に在るという確信を深めた時でもありました。久しぶりに聖体訪問に伺った時の静かな湧き上がる喜びは忘れられません。同時に痛んでおられるイエスに少し触れた思いがしました。常に感染者数に一喜一憂し、不安と緊張、恐れを感じ続ける私です。そんな時、ご聖体の前に座った時の感覚を思い出し、『恐れるな』の言葉に戻って行きました。そこで初めてコロナ禍によるダメージを受けた人々のために祈ることができると思いました」

☆ ☆ ☆

「コロナ感染が広がり、自粛となり、家での生活時間が今までよりあり、ゆっくりと時間を費やす時間は魅力でありましたが、だんだんと人との関わり、対話が薄れ、そのことがいかに大切であるかを知りました。ミサに与ることが出来た喜びは重い日もありました」

☆ ☆ ☆

「コロナ以前がどんな生活だったか、ちょっと思い出せないのが怖いのです。今また少しずつ、みんなに会えるようになって、まだ完全ではないけど、うれしい」

☆ ☆ ☆

教皇フランシスコ 「主はわたしたちを独り捨て置きはしません。わたしたちの祈りに結ばれて、主がわたしたちの上にみ手を置いてくださることを確信しています。力強く何度もこういつてくださると確信しています。— 恐れることはない。『わたしは復活しあなたとともにいる』」(「パンデミック後の選択」より)

後田地区 三井正憲がまとめました

— 詩 —

エチュード

ホールに響くショパン
 ピアニストの指から
 次々と流れるエチュード
 静かに
 華麗に
 そして 激しく響く「別れの曲」
 涙が一粒落ちたのは
 …なぜ？

藤本幸枝



七五三 14こどもたちの祝福 11/14

この日は、子ども一人だけの参加で少し寂しい行事になりました。

すべての子ども達が、安心して生活することができ、健やかに成長しますように。かけがえのない笑顔のために祈ります。



共同祈願

コロナ禍で御降誕を迎えます。

喜びの原点に立ち戻り、温かさ、優しさ、
愛のあふれる

細江教会になっていきましょう。

信徒代表より

*今年もコロナ禍でしたが、来年は良い方向になるように、笑顔で集うことが出来ますように、お祈りしましょう。

今年ミサの中止もありましたが、今は制限化の中どうかミサに与ることができています。まだまだ変異株のウイルスも予断を許していない状況で、日々気をつけることが大切です。

そんな中、主日のミサは大変ご不便をかけておりますが、聖堂でもホールでも共に祈ることができます。参加の方法につきましては柔軟な対応をしたいところですが、今までどおりをお願いします。来年の宣教司牧協議会で再考したいと思います。

*教会建替え積立献金にご協力くださり、感謝いたします。

神さまの大いなる計らいのもと、早期実現を目指しております。

来年もどうぞよろしくお願いいたします。

† 帰天

・10/27 エリザベト 中野スエ子さま 96歳
神さまの下で憩われていることでしょう。

キッチンカーがやってくる！

2022年1/9（日）

労働教育センターの子どもとみんな食堂

「ロクスひよりやま」より お知らせ

神さまの夢を乗せて進みだしたロクス号を、ともに分かち合い「日和山カフェ」「子ども食堂」の活動についてお知らせできたらと思います。

新型コロナウイルスの関係でお食事の提供はできませんが、フードロス食品や持ち帰りができる小さなお土産をお届けにまいります。

皆さまにお会いできることを楽しみに！



編集後記

・細江教会では、特にコロナ禍で生活が困窮している外国人留学生や就労者への物資等の支援の用意があります。遠慮なく申し出てください。また、皆さまのご支援をお願いします。

何でも相談受付中・・・細江教会のディン神父、労働教育センター中井神父、教会総務（近藤）までご連絡ください。